



姉妹都市の挑戦 —国際交流は外交を超えるか

(公財) 日本国際交流センター 執行理事
めんじゅ 毛受 敏浩

日本で最初に姉妹都市提携が行なわれたのは1955年12月、長崎市とアメリカのセントポール市によるものだった。アメリカからの申し出によるものだったが、原爆が投下された長崎市はこの提案にどのように対応したのだろうか？まだ一般市民の海外渡航は許可されておらず、また「姉妹都市」ということば自体なかった時代の話である。

拙著『姉妹都市の挑戦—国際交流は外交を超えるか』（明石書店）は、筆者自身が兵庫県庁から姉妹州のアメリカ・ワシントン州の大学院に2年間派遣されたことをきっかけに、日米、日中、日ロ、日韓など、日本にとって重要な国々との姉妹都市提携の経緯や現状などを網羅的にまとめたものである。最初の姉妹都市提携から60年以上が経過したが、姉妹都市について一般向けに書かれた本はこれまでなかった。そうしたこともあり、TBSラジオでの筆者自身の出演による紹介や日経新聞、読売新聞、東京新聞の書評でも取上げられた。

本書は8章からなる。長崎市とセントポールとの提携の経緯など、日本の姉妹都市の原点を詳しく探る1章から始まり、2章では異なる起源を持つアメリカとヨーロッパでの成り立ちを解説する。姉妹都市交流は世界平和を目的とすると言われるが、アメリカでは政府による外交戦略として発展した一方、ヨーロッパでは戦後の独仏の和解を目指す市民の働きかけが姉妹都市の起源となった。第二次大戦後、ヨーロッパ各国が急速に和解した背景には、姉妹都市提携が大きな貢献を果たしたことは日本ではあまり知られていない。



米国の姉妹都市プリマスの歴史を紹介する宮城県七ヶ浜町のプリマスハウス

3、4、5章は日本と隣国

である中国、ロシア、韓国との姉妹都市提携について解説している。外交関係の波に翻弄されながらも、日中、日ロ、日韓には数多くの姉妹都市提携が結ばれ、草の根交流が根づいている。意外なことに、国交のない時代に日本側から韓国や中国に対して姉妹都市提携の申し出が行われ、自治体自らが外交関係を改善しようという時代があった。一方、韓国と姉妹都市を持つ島根県が「竹島の日」を定めたことで、日韓関係に大きな亀裂が生じるという問題も生まれた。こうした草の根レベルの動きが与えた外交関係への影響や可能性についても詳述している。

6章ではイスラム圏との提携を取上げ、ホームステイを含む活発な交流の様子を描いている。7章、8章は姉妹都市交流の運営について筆者自身の経験をもとに成果につながる交流のあり方を示している。

日本人の国際交流の原点は姉妹都市交流といえる。グローバル化が進む中で、日本と世界とのこれからの関わり方のさまざまなヒントを本書を通して汲み取っていただければと思う。



プロフィール

毛受 敏浩（めんじゅ としひろ）
兵庫県庁勤務中に姉妹州の米国ワシントン州立エバグリーン大学に派遣され、姉妹都市交流をテーマに公共経営修士号取得。(公財) 日本国際交流センターにて、幅広い分野での国際交流活動に従事し執行理事を務める。自治体国際交流表彰（総務大臣賞）審査委員、新宿区多文化共生まちづくり会議会長。